

平成27年度 竜王小学校 学校関係者評価書（前期）

平成27年7月17日（金）

竜王小学校学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成27年7月17日（金） 15時30分～16時40分

会場：竜王小学校理科室

参加者：（学校関係者評価委員）

<学校評議員> 三井 譲 塚川美恵 篠原美代子 安部伸江

<PTA代表> 小尾公夫 古泉紫乃

（学校側）

校長 奥山賢一 教頭 小林治夫 教務主任 進藤雅一

生徒指導 増坪広夫

I 学校側から提案された内容

第1回学校評価実施結果の概要について

- ・教職員自己評価の調査結果について
- ・児童アンケートの調査結果について
- ・評価状況と改善策について

II 協議された主な内容

- ① 学校教育目標・学校経営について
- ② 学習指導について
- ③ 生徒指導について
- ④ 地域との連携について
- ⑤ 学校の特色について

<学校関係者評価書>

I 全体評価

今回の調査結果では、肯定的な意見（A：そう思う B：ややそう思う）がほとんどであり良好な状況である。児童が学校での生活を楽んでいる様子も感じられる。ランドデザインを職員が意識し組織としての力が増しているように感じる。トップダウンとボトムアップのバランスを維持しながら、さらに良い方向に向かうために努力していることを知ることができた。

しかしまだまだ改善が必要な場面もあり、努力を要する事項も見られる。

II 特徴

(1) 学校経営・学校運営について

教職員の学校経営・学校運営に対する取り組み状況は良好である。特に学校経営方針を職員一人一人が意識しつつ、P→D→C→Aサイクルを取り込んだ経営・運営がなされている。職場の福利厚生や健康管理の面では注意が必要である。様々な児童や保護者の対応、人事評価制度の変更など、職員の多忙化が心配である。ストレスや疲労が重ならないよう、メンタルヘルスへの取り組みを強化していくと同時に、地域の人材をより活用して教職員の負担軽減も図っていくことがのぞまれる。また危機管理については、早急に一人一人が意識していくよう声をかけていく。

○職場の福利厚生や健康管理

- ・職員の協力体制を見直す。業務の効率化を行う。地域人材の活用と確保をする。

○危機管理について

- ・学校の管理下での安全対策を徹底する。保護者や長寿会の登下校児の見守りを協力する。安心メールのさらなる普及。地震対策等を実施する。

(2)学習指導・生徒指導について

児童アンケートから、「先生がよく勉強を教えてくれる」と答えている児童の割合が大幅に伸びていることわかった。日々の職員の熱心な指導が成果を上げてきた。また、「家庭学習の手引き」を配布し家庭学習の在り方を保護者に十分理解していただくことや、今年度より夏休みに「補習学習日」を実施していくことなどを通して、児童の基礎基本の定着を今後とも図っていききたい。

生徒指導に関しては、生活規律を向上させる「明るく元気な竜の子15箇条」を児童に浸透するよう指導をしつつ、職員全体で共通理解を持って生徒指導に当たっている様子がうかがえる。

○学習指導について

- ・今後ともより充実した学習活動のあり方を探究する。学習規律のさらなる徹底を図る。個に配慮した指導のさらなる充実を図る。家庭学習を啓蒙する。

○生徒指導について

- ・キャリア教育について児童の実態把握をすると共に、職員が意識を持って指導にあたる。

(3)地域との連携について・学校の特色について

児童を「地域で育てる」ためにも、学校評議員やPTAの代表者からなる会議を有効に利用していき、多くの目で児童の成長を見守ってもらう。そしてさらなる学校教育への理解と協力についての取組を進めていく。児童会が推し進めている「あいさつ運動」の取組が地域の方にも認められてきているので、さらなる充実を図っていききたい。

○地域との連携・学校の特色について

- ・学校での多くの活動へ地域や保護者の方が積極的に参加できるよう人材や施設の掘り起こしと確保を進める。
- ・職員が地域のことをより知る機会を設ける。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

○ここ数年の学校の取組の成果がとても感じられる。他の学校と比べても竜王小学校の良さを感じている。ただし、頑張りすぎることが職員の多忙化につながるものがないよう配慮していくことが大切。地域の人材や施設をより活用すべきである。

○「朝食を取らない児童」「悩み事を相談できる先生がいない児童」等の割合は着実に減少してきている。しかし、小数ながらまだいることを念頭に置き「0」に向かって頑張りたい。

○他県でのいじめの報道などは、保護者や地域の方にとって不安なものである。その不安を払拭していくよう学校で取り組んでいることを多くの方に認知してもらいながら、問題が起きたときには早期対応を心がけていく。

※特記事項 なし

